

環境分野

低炭素社会の構築をめざし
クリーンエネルギー天然ガスの高度利用を基軸として
環境保全を推進していきます。

環境保全活動の基本的な考え方

1993年度に環境基本理念および環境行動指針を制定し、環境保全活動を推進しています。環境保全活動は、関係会社を含めた企業グループ全体で取り組むことにより、一層大きな改善効果が期待できることから、2005年度に「広島ガスグループ環境基本理念」および「広島ガスグループ環境行動指針」を制定し、広島ガスグループとして環境保全への取り組みを推進しています。

■ 広島ガスグループ環境基本理念

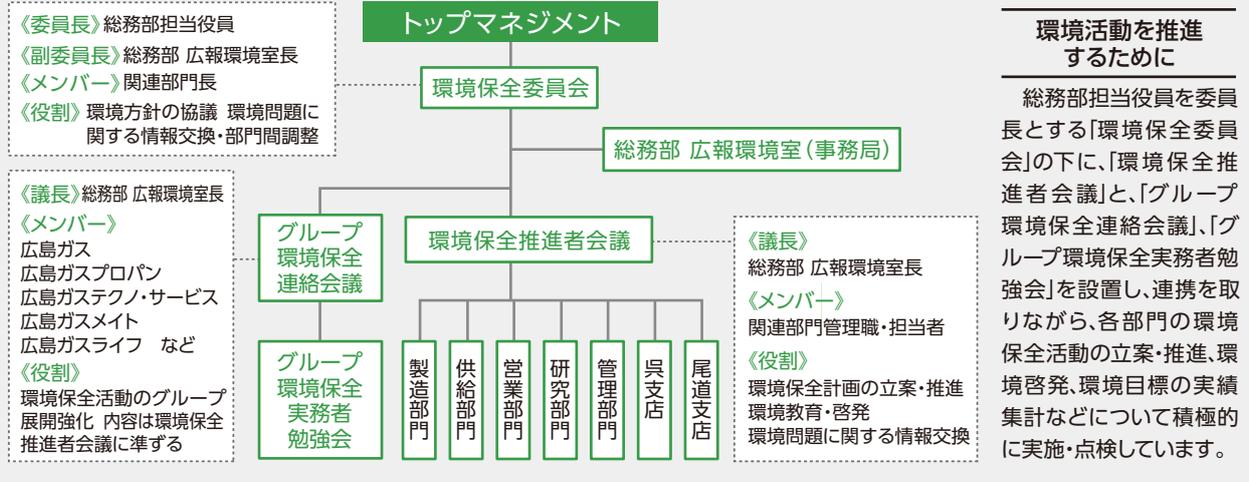
広島ガスグループは、
事業活動を通じてエネルギーと資源の効率的利用を
追求するとともに、地域・地球環境保全を推進し、
社会の持続可能な発展に貢献する。

■ 広島ガスグループ環境行動指針



環境行動指針を支える環境マネジメント

■ 環境活動推進体制 (2020年4月1日現在)



都市ガス(広島ガス)の組成

LNGを主原料に都市ガスを製造し、ガス導管を通じてお客さまにお届けしています。毒性のないメタン中心のガスで、無色無臭のため工場で付臭しています。

【都市ガスの性状】

成分およびその含有量(天然ガス供給区域)

成分			組成	ガス種	13A
名称	化学式	体積%			
メタン	CH ₄	91	標準熱量	45MJ/m ³ (10,750kcal/m ³)	
エタン	C ₂ H ₆	5	比重 (空気=1)	0.639 (空気より軽い)	
プロパン	C ₃ H ₈	2	CO ₂ 排出 係数	2.29kg-CO ₂ /m ³ (石炭の60%)	
ブタン	C ₄ H ₁₀	2			

(注) ガス組成は代表値を示す。

※1

LCA※1による化石燃料の温室効果ガス排出量の比較

この表は、化石燃料が採掘から燃焼までの各区分で排出する温室効果ガス排出量(CO₂換算値)を比較しており、LNG(液化天然ガス)やLPG(液化石油ガス)が、他の化石燃料と比べ、LCA評価においても優位性があることを示しています。

区分	石炭	石油	LPG	LNG
生産	4.58	4.06	4.94	9.17
輸送	1.71	0.79	1.80	1.97
設備	0.11	0.08	0.11	0.04
燃焼	88.53	68.33	59.85	49.40
合計	94.93	73.26	66.70	60.58
指数※2	100	77	70	64

※1 LCA:ライフサイクルアセスメント
原材料の採取から製造、使用および廃棄に至るすべての過程を通じて、製品が環境に与える影響の大きさを定量的に整理、評価する手法。表の数値は、温室効果ガス排出量をCO₂換算し、総発熱量ベースで算出。

※2 指数は、石炭を100とした場合の温室効果ガス排出量比。

*資料: エネルギー・資源学会「LNGおよび都市ガス 13Aのライフサイクル温室効果ガス排出量の未来予測」,
「エネルギー・資源」Vol.28 No.2(2007)

環境啓発活動

毎年、環境月間である6月に、広島ガスグループ役職員を対象に、環境意識の啓蒙のため、外部講師を招いて、広島ガスグループ環境講演会を実施しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となりました。



広島ガスグループ環境講演会

環境保全・生物多様性への考え方

広島ガスグループは、環境特性に優れた天然ガスを中心とするエネルギー供給事業者として、環境保全・生物多様性に配慮した事業展開を幅広く認識し、環境保全活動に真摯に取り組むことで、社会の持続可能な発展に貢献していきます。



パラスト水確認作業



エヒメアヤメ生息地下草刈り(三原市)

温暖化対策・温室効果ガス削減に向けた動き、低炭素社会への貢献

世界

2016年11月 パリ協定発効

【目標】世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて2℃未満に抑える(先進国・開発国を含む国・地域が参加)

日本

【中期目標】2030年度において2013年度比で26%の温室効果ガスを削減

部門別削減目標目安		ガス業界・広島ガス	
部門	政府目標目安	ガス業界・広島ガスで貢献できること	参照ページ
家庭部門	40%減	・天然ガスの普及拡大 ・家庭用燃料電池「エネファーム」など高効率機器の普及拡大	→P.23 →P.24
業務その他部門	40%減	・天然ガスの普及拡大 ・業務用高効率機器の普及拡大 ・エコオフィスの推進	→P.23 →P.24 →P.26
産業部門	7%減	・燃料転換による天然ガスの普及拡大 ・業務用高効率機器の普及拡大	→P.23
エネルギー 転換部門	28%減	・工場でのエネルギー使用の効率化 ・業務施設などにおける再生可能エネルギー設備の導入	→P.25 →P.26

環境省「地球温暖化対策計画」から エネルギー起源CO₂数値

SDGsに関連する広島ガスの取り組みについて、ページ右上に該当するSDGsのアイコンを記載しています。

◎持続可能な開発目標
[SDGs(Sustainable Development Goals)] 17の目標



1 お客さま先での環境負荷の低減

広島ガスグループは環境負荷軽減に寄与する製品・サービスの提供を推進し、お客さま先での環境負荷の低減に努めます。

天然ガスの環境性

天然ガスはクリーンなエネルギーです。化石燃料の燃焼生成物など発生量比較(石炭を100とした場合)



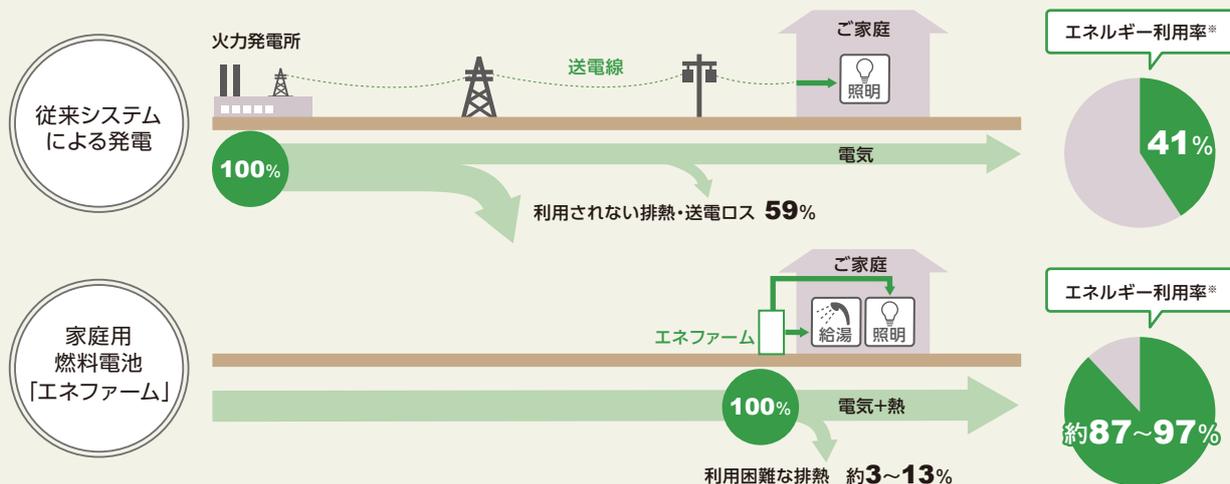
天然ガスは、石油や石炭に比べ、燃焼時に排出されるCO₂や有害物質の量が少いため、化石燃料の中でもクリーンなエネルギーといわれています。
出典:「エネルギー白書2013」資源エネルギー庁

エネルギー利用効率の高いガスコージェネレーションシステム

ガスコージェネレーションシステムは、天然ガスを使用して発電するとともに、同時に発生する熱を給湯や冷暖房で利用することで、エネルギーを効率的に利用できるシステムです。

エネルギー利用効率の比較

発電所で発生する熱は、そのほとんどが捨てられてしまいます。また、遠く離れた家庭に電気が運ばれてくるまでに、送電ロスなどが発生します。ガスコージェネレーションシステムである家庭用燃料電池「エネファーム」であれば、使う場所がエネルギーをつくる場所となります。そのためロスが少なく、排熱も有効活用できます。約8割~9割のエネルギー利用率が期待でき、省エネ・環境性に優れています。



出典: (一社)日本ガス協会

燃料転換の取り組み(工業用)

広島ガスでは、天然ガス販売量の約5割は工業用のお客さまが占めています。広島ガスが供給する天然ガスは半導体工場・自動車工場・製鉄所などさまざまな業種の生産工程において利用されています。

溶解炉、熱処理炉などの工業炉やボイラの燃料を重油などの油燃料から天然ガスへと燃料転換することで、お客さま先におけるCO₂排出量の抑制に貢献しています。油燃料から天然ガスへの燃料転換によりCO₂排出量は約25%の削減が可能となります。



ガス工業炉

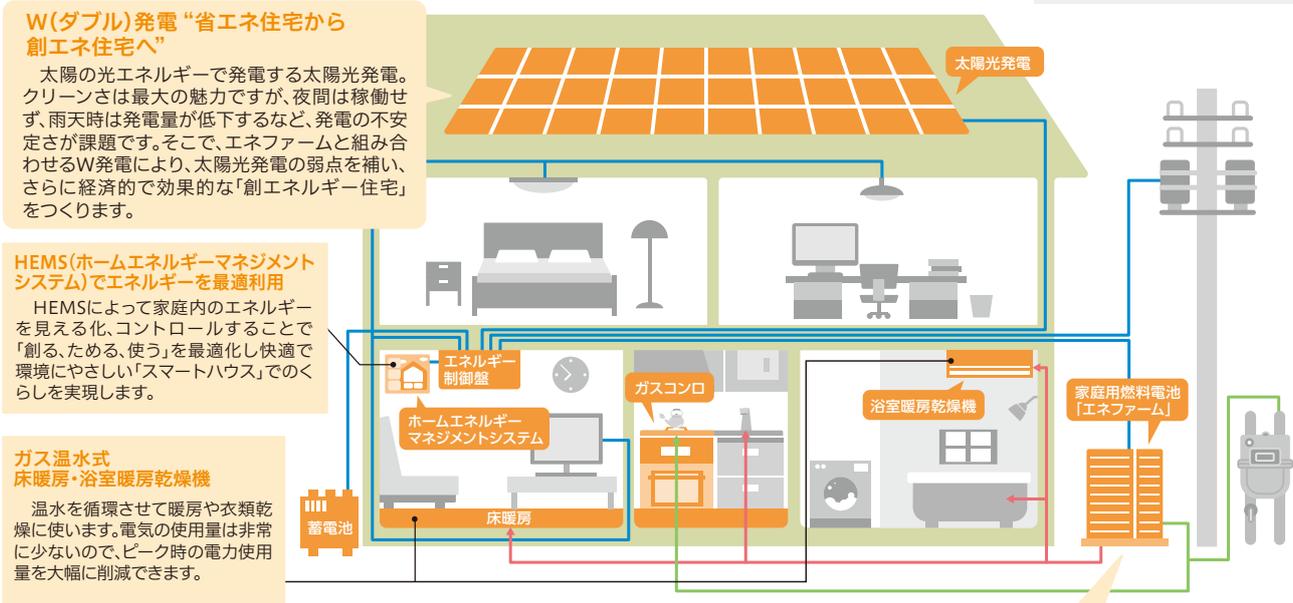
天然ガス高効率利用の促進(家庭用)

天然ガスの普及拡大を図りつつ、エネルギーの高度利用を推進すること、具体的には太陽光などの再生可能エネルギーの出力変動を天然ガスで補完することなど、さらなる省エネ・省CO₂、ZEH*(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)の普及拡大に貢献するとともに、便利で快適な暮らしをご提案します。

*ZEH…年間の一次消費エネルギー量の収支をプラスマイナス「ゼロ」にする住宅

家庭用高効率機器の普及【環境にやさしい未来型住宅(スマートエネルギーハウス)の提案】

— ガス — 電力 — 温水



高効率給湯器「エコジョーズ」
(累計販売台数55,341台)
(2020年3月31日現在)
従来利用されていなかった排熱をコンデンシング技術を使って再利用し、熱効率を80%から95%まで引き上げた高効率給湯器です。

高効率給湯器「エコジョーズ」

家庭用燃料電池「エネファーム」
(累計販売台数2,611台)
(2020年3月31日現在)
「エネファーム」は、天然ガスなどから取り出した水素と空気中の酸素の化学反応で発電し、その際発生する熱を利用してお湯をつくります。従来型給湯器によるシステムと比べて、CO₂排出量を標準家庭で年間約1.2t~2.3t抑えるエネルギー効率が高い最先端の発電・給湯暖房システムです。

P社製(固体高分子形) A社製(固体酸化物形)

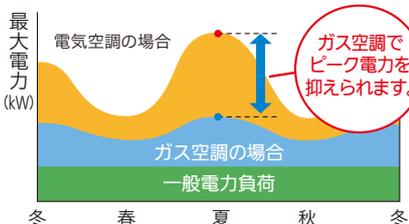
天然ガス高効率利用の促進(商業用)

業務用高効率設備・機器の普及

◎ガスヒートポンプ(GHP)・ガス吸収冷温水機(ナチュラルチラー)の普及促進

ガスヒートポンプ・ガス吸収冷温水機は、ガスで空調するシステムで、夏期・冬期における電力のピークカットに大きな効果を発揮します。

【GHPによる消費電力の平準化(イメージ)】



◎天然ガス自動車

天然ガス自動車(NGV)は、ガソリンや軽油の代わりにクリーンな天然ガスを燃料に走行する自動車です。その排出ガスには、発ガン性が指摘される黒煙(粒子状物質)や酸性雨の原因となる硫酸化合物が含まれません。地球温暖化の原因となるCO₂もガソリン車に比べて低く抑えられます。



環境技術開発(広島ガス技術研究所)

省エネ機器・システム開発

未利用エネルギーであるガスの圧力差を利用した発電システムを開発しました。これは都市ガスを減圧する際の膨張エネルギーで発電し、特徴は燃料が不要、CO₂を排出せずに発電し、簡単な構造で中小ガス事業者や大口のお客さまへ導入しやすいシステムです。現在、共同開発者である(株)オンセックより販売しています。



② 事業活動における環境負荷の低減

広島ガスグループの事業活動が環境に与えている負荷を軽減するとともに、環境マネジメントの強化を図り、ゼロエミッションをめざした3R(廃棄物などの発生抑制、再使用、再資源化)を積極的に推進します。

ガス導管工事における排出物削減と再資源化

新工法の採用、再資源化の推進などによりアスファルト・コンクリート・土砂などの排出量の削減に努めています。

ガス導管工事における掘削土の削減と再資源化



- ◎非開削工法による掘削土の削減
道路を掘らずにガス導管を埋設する工法
- ◎浅層埋設による掘削土の削減
道路に埋設するガス導管の深さを従来より浅く埋設する工法
- ◎掘削幅縮小による掘削土の削減
道路掘削幅を従来より縮小する工法
- ◎掘削土の直接埋め戻しまたは再資源化処理し再利用
ガス導管工事で排出された土砂のうち、良質のものまたは再資源化したものを埋め戻しに使用

これらの取り組みにより、山砂などの採掘量を減らし、生態系への影響を低減しています。

【アスコン塊のリサイクル】

アスコン塊は2019年度にグループ全体で約2万9千t発生し、ほぼ全量を再生アスファルト合材として、資源リサイクルしています。

【ガスメーターのリユース】

使用済ガスメーターの分解・整備・検査によるリユースに努め、2019年度は、約4.3万個(約97%)をリユースしました。

ポリエチレン管の普及促進と廃材の再資源化

ガス導管には耐食性・可とう性に優れ地震にも強いポリエチレン(PE)管を1989年から採用しています。また、不要になったPE管は100%再資源化しています。



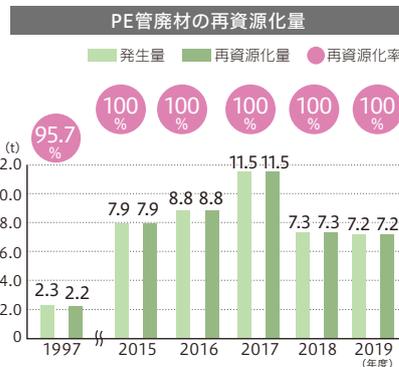
ポリエチレン管の可とう性



ポリエチレン管



ポリエチレン管リサイクル品(病院向けボックス)



廿日市工場コージェネレーション設備と高効率化改造

2004年、廿日市工場にガスコージェネレーションシステムを導入し、排熱の活用により、CO₂排出量の抑制に寄与しています。また、余剰電力は小売電気事業者などへ卸売供給しています。



ガスコージェネレーションシステム(廿日市工場)

廿日市工場ガスコージェネレーションシステム概要

- 発電容量/11,000kW ・高効率天然ガスエンジン5,500kW×2基
- 送電容量/最大10,000kW ・特別高圧22kV

2018年3月末から2018年7月末にかけてガスエンジン高効率化改造工事を行いました。

本工事は、今後の長期使用を見据えて、ガスエンジンのGSI(ガス・スパーク・イグニッション)化への改造とともに、発電機のオーバーホール、関連ポンプの更新を行い、設備全体の信頼性の向上と合わせて、高効率化と長寿命化を図る目的で実施しました。



コージェネレーション改造工事

GSI化により、発電効率の改善、着火補助燃料設備の不要化、メンテナンス費用削減など大きなメリットを享受できるものと考えています。

本取り組みは、「コージェネ大賞2019」の産業用部門最高位である「理事長賞」を受賞しました。



コージェネ大賞表彰式

廿日市工場と廃棄物処理施設との熱融通事業

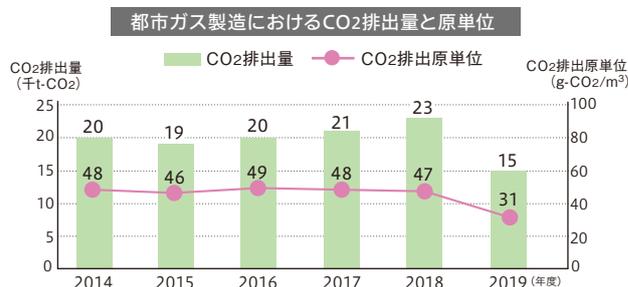
2019年4月から、廿日市工場の西側隣地に新たに建設された廿日市市廃棄物処理施設(はつかいちエネルギーグリーンセンター)から廿日市工場への熱供給を開始しました。隣地からの未利用熱を供給してもらうことで、LNG気化器の熱源発生設備である温水ボイラの稼働を減らすことができ、省エネ法(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)における成績向上につながります。近隣事業所同士で熱を融通することによって、地域での環境負荷低減に貢献しています。



廿日市工場熱交換器

都市ガス製造におけるCO₂排出量と原単位

廃棄物処理施設との熱融通事業により、製造所からのCO₂排出量は大きく減少しました。



再生可能エネルギーの活用

2017年10月に設立した「海田バイオマスパワー(株)」が建設中の海田発電所(バイオマス混焼発電所)は、2021年3月の営業運転開始を予定しています。本事業では、広島県内の林地残材などの未利用木材のほか、海外の木質系バイオマスを使用します。

海田発電所の運転を通じて、再生可能エネルギーの普及拡大や、低炭素社会の実現に寄与してまいります。

また、2013年10月から、呉市の旧阿賀工場跡地にて、大規模太陽光発電所(733kW)の運転を開始しています。

さらに、本社ビル・支店・ショールーム・グループ会社でも太陽光発電設備を設置して、環境保全活動に努めています。

バイオマス混焼発電所 完成予想イメージ図



建設中の海田発電所



受入コンベアと燃料バンカ



大規模太陽光発電所(呉市阿賀)



事業所太陽光発電(広島ガスプロパン)(広島市安佐南区緑井)

事業所における省エネと資源の有効活用

エコオフィス活動の推進

事務所におけるCO2排出削減、廃棄物排出の削減などを推進しています。全国的な節電の必要性などをふまえ、オフィスに加え家庭での省エネ行動例を社内周知しています。

エコ オフィ ス活 動目 録	① エネルギー消費の低減 [節電、空調管理、節水、公共交通機関の利用促進、クールビズ(5月~10月)の実践、省エネ機器(LED照明など)への更新など]
	② 資源消費の低減 [紙の使用削減と再資源化、タブレット端末、電子黒板の導入など]
	③ 廃棄物の発生抑制と適正処理 [ごみの分別強化、リサイクル推進など]
	④ 自動車管理、低公害車の導入 [使用頻度の少ない車の契約解除対応]
	⑤ 自転車の活用による環境保全 [近隣・市内中心部へ移動の際、自転車を活用]
	⑥ 全社掲示板による環境保全啓蒙活動

環境に関する法令順守

2019年度は、環境に関する法令違反や罰則の適用はありませんでした。

省エネ法への対応

省エネ法(エネルギーの使用の合理化等に関する法律)ならびに温対法(地球温暖化対策の推進に関する法律)に基づき、エネルギー管理統括者などの選任、ならびに全事業所を対象とした定期報告書および中長期計画書などを監督官庁である中国経済産業局に提出しました。

今後も、法令に基づきエネルギーの有効活用に努めていきます。

自動車環境管理

広島県条例「広島県生活環境の保全等に関する条例」に基づき、自動車使用合理化実施状況報告書、広島市条例「広島市地球温暖化対策等の推進に関する条例」に基づき、自動車環境報告書などを行政に提出しました。

今後も、条例に基づき適正な車両管理・低公害車の導入に努めていきます。

土壌調査とその対応

天然ガス転換完了を機に、石炭を主原料としていた旧海田工場ならびに旧阿賀工場の製造設備跡地の土壌調査を自主的に行った結果、ヒ素、シアンなどによる汚染が判明しましたので、2003年12月に公表するとともに近隣の皆さまへの説明を行いました。調査の結果からも周辺の生活環境への影響はないものと考えていますが、将来にわたる周辺への影響を防止するため対策工事を実施し、2004年度に完了しました。その後も両用地とも地下水モニタリングを実施しており、海田工場跡地(現:海田基地)については、揚水井戸、水処理装置を使用して、揚水による浄化を継続しています。

産業廃棄物処理場の実地確認

産業廃棄物処理法(「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」)、広島県条例に基づき、広島ガスグループから産業廃棄物として排出される処理場の実地確認を行っています。



産業廃棄物処理場

化学物質の管理

[PCB(ポリ塩化ビフェニール)の管理]

トランス、コンデンサーなどに使用されていたPCBは保管場所に集積・管理し、2014年5月に高濃度PCB、2015年9月に低濃度PCBの無害化処理を実施しました。

[水銀含有機器の処分]

2013年水俣条約が採択、2015年「水銀による環境の汚染の防止に関する法律」が制定・公布され、2017年度に広島ガス、2018年度に広島ガスグループの水銀含有機器の調査・回収・処分を完了しました。

[PRTR法*への対応]

化学物質の取り扱い量は、天然ガス転換により激減し、2019年度は、規定量の届出物質はありませんでした。

*PRTR法: 特定の化学物質を規定量以上取り扱った際に排出・移動量を届け出ることを選定した法律

[アスベスト使用状況調査とその対応]

広島ガスおよびグループ会社3社は、アスベストに関する健康被害状況と自社所有建物および設備などにおける使用状況を調査しました。その結果、健康被害はありませんでしたが、一部使用が確認され、除去作業を2005年に完了し、調査結果を同年公表しました。

3 地域環境保全への貢献

広島ガスグループが事業活動を営む地域の環境保全活動に積極的に取り組みます。

地域清掃活動

毎月一回、各事業所周辺の美化活動を実施するとともに、ひろしま男子駅伝、クリーン太田川河川一斉清掃など行政主催の清掃イベントにも参加しています。



事業所周辺清掃

環境学習・環境啓発活動

行政・学校・地元企業と連携し、環境保全・教育活動を推進するとともに、ショールームなどでの環境セミナー、調理実習、施設見学説明会など、体験型学習を行っています。



環境講演・セミナー

年月	名称	内容
年間を通じて	環境学習(エコ・クッキング*教室など)	社会分野(P.33)を参照ください
	出張環境講演・セミナー	地元企業などでの環境講演セミナー

※「エコ・クッキング」は、東京ガス㈱の登録商標です

各種環境イベントなどへの出展

CSR活動や、天然ガスの環境性や省エネ型ガス機器の紹介などを実施しています。



ひがしひろしま環境フェア2019

年月	名称
2019.6	ひがしひろしま環境フェア2019
	「環境の日」ひろしま大会(広島県環境フェア)
2019.7	2019ひろしま温暖化ストップフェア(広島市環境フェア)
2019.9	くれエコフェスタ2019
	海田町環境フェア
2019.10	はつかいち環境フェスタ2019
2020.2	府中町緑の仲間フェスタ

地域環境保全推進団体・環境啓発事業への参画

広島県の行政・団体・企業により構成されている各種の環境保全推進組織に委員などとして参画し、環境啓発・教育・イベントなどを支援しています。

団体・事業	事務局
ひろしま地球環境フォーラム	広島県
広島県地球温暖化防止活動推進センター	広島県環境保健協会
広島市地球温暖化対策地域協議会	広島市
ひろしまエコパートナー	広島市

団体・事業	事務局
くれ環境市民の会	呉市
エコネットひがしひろしま	東広島市
中国地域エネルギー・温暖化対策推進会議	中国経済産業局

広島県の森林保全参画による地域環境貢献

●「このまち思い 広島ガスの森」開設

2019年、広島ガス創立110周年を機に、地域環境貢献の一環として、広島県緑化センター内の8.13haの森林地区を「このまち思い 広島ガスの森」と命名して、森林保全活動をはじめました。地域のエネルギー事業者として、CO₂削減への貢献のみならず、多くの方に喜んでいただける、笑顔あふれる場になるよう、イベント開催や、整備などを実施していきます。



このまち思い 広島ガスの森



除伐による森林保全活動

●J-クレジット

広島ガス創立110周年を記念し、2019年度から広島県が保有する森林のJ-クレジットを購入する活動を開始しました(6t/年)。広島県の森林保全に参画することによって、CO₂削減に貢献しています。今後は、積極的にカーボン・オフセットを実施していきます。



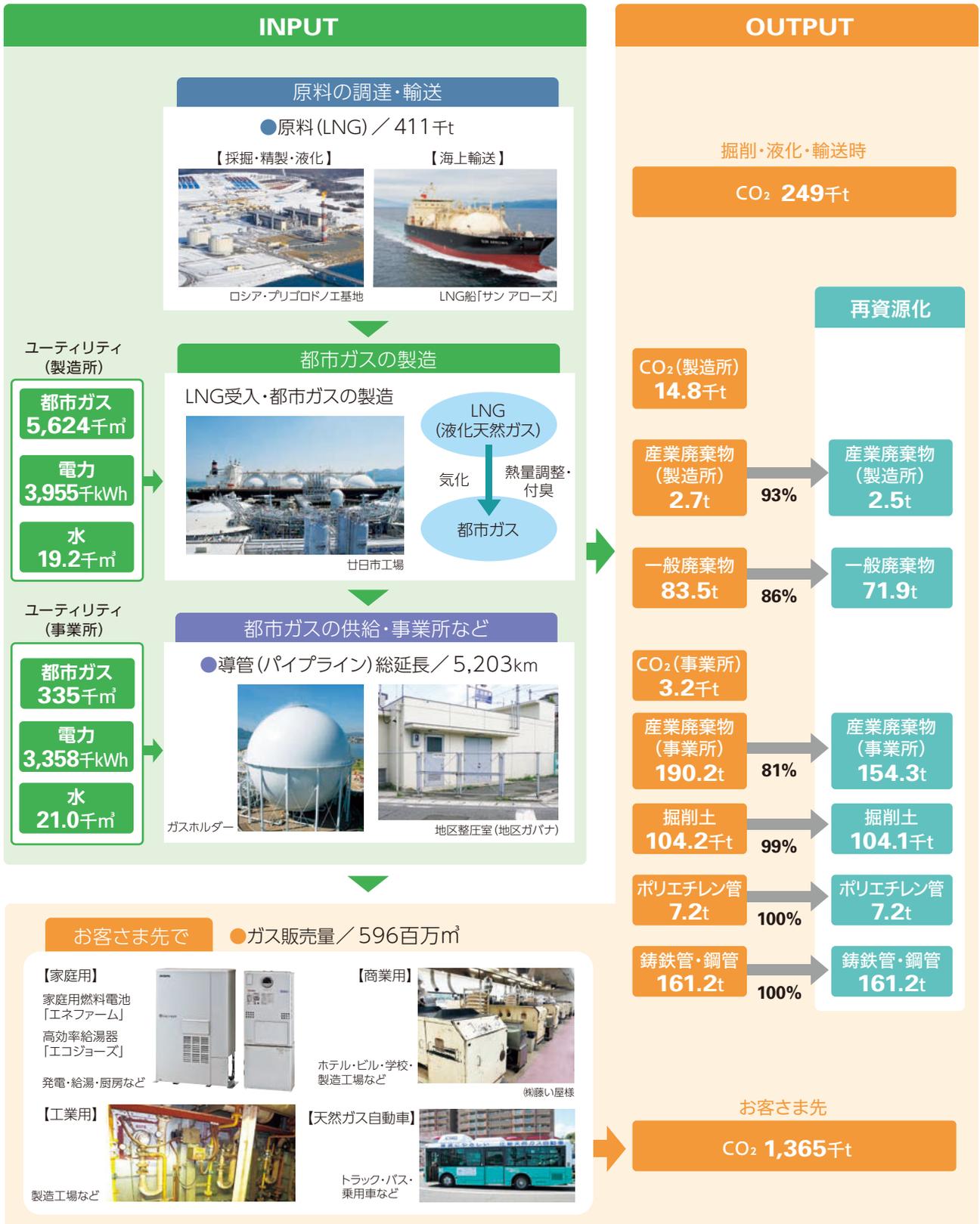
広島県J-クレジット森林

環境負荷低減フロー (2019年度実績)

環境保全活動における
お取引先との関係

廿日市工場・備後工場・東広島製造所においては、LNG船、LNGローリーなどの役務提供者および購買先に対して、環境保全活動(サプライチェーン・マネジメントなど)への協力を依頼しています。

- 環境保全に関する覚書
- 安全環境教育



経営分野

環境分野

社会分野

環境目標および実績

環境保全活動を効果的に推進するため、環境目標を設定し、活動を進めています。

2016年度～2020年度 環境目標

*行政など目標値

■ 目標 ■ 実績

環境行動指針	環境目標	2019年度 目標・実績	2020年度 目標
① お客さま先での 環境負荷の低減	① お客さま先でのCO ₂ 排出量を年間1万t以上削減する。	<p>2019年度 1.1 (目標), 0.6 (実績) 未達 2020年度 1.1以上 (目標)</p> <p>※2019年度の大口など新規獲得ガス販売減小のため</p>	1.1以上
	② ガス製造工場の過去5年の前年比エネルギー使用原単位平均を1%以上削減する。	<p>2019年度 -1 (目標), -5.9 (実績) 達成 2020年度 1以上減 (目標)</p>	1以上減
	③ オフィスの過去5年の前年比エネルギー使用原単位平均を1%以上削減する。	<p>2019年度 -1 (目標), -1.0 (実績) 達成 2020年度 1以上減 (目標)</p>	1以上減
	④ 低公害車の割合を2020年度までに70%とする。	<p>2019年度 66 (目標), 80 (実績) 達成 2020年度 70以上 (目標)</p>	70以上
	⑤ 広島ガス事業活動(都市ガス製造時)におけるCO ₂ 排出原単位を、55g-CO ₂ /m ³ (販売ガス量)以下を維持する。	<p>2019年度 55 (目標), 31 (実績) 達成 2020年度 55以下 (目標)</p>	55以下
	⑥ 産業廃棄物最終処分量(製造部門)を、2020年度まで1t以下を維持する。	<p>2019年度 1 (目標), 0.2 (実績) 達成 2020年度 1以下 (目標)</p>	1以下
	⑦ ガス導管工事から発生する掘削土量を、従来工法に比べ35%以上削減を維持する。	<p>2019年度 35 (目標), 46 (実績) 達成 2020年度 35以上 (目標)</p>	35以上
	⑧ ガス導管工事から発生する掘削土量の再資源化率85%以上を維持する。	<p>2019年度 85 (目標), 99 (実績) 達成 2020年度 85以上 (目標)</p>	85以上
② 事業活動における 環境負荷の低減	① CSR・環境分野でのお客さま・地域の方との接点を年間15,000人以上とする。	<p>2019年度 13,000 (目標), 19,100 (実績) 達成 2020年度 13,000以上 (目標)</p> <p>【環境】 2,000 (目標), 3,000 (実績) 達成</p>	13,000以上

環境会計

事業活動における環境保全のためのコストとその活動による効果を定量的に把握するのが環境会計です。環境に関わるコストと効果を、環境省の「環境会計システムの確立に向けて〈2000年報告〉」をベースにした(一社)日本ガス協会の「都市ガス事業における環境会計導入の手引き」(2002年10月改定)に基づき集計しました。

2019年度の集計実績

環境保全コスト

(単位：百万円)

環境保全コスト項目		投資額		費用額	
		2018年度	2019年度	2018年度	2019年度
主な内容(例)					
自 社 業 務	公害防止	13	24	17	21
	地球環境保全	158	266	35	109
	資源循環	0	0	29	21
	環境マネジメント	0	0	17	18
	その他	0	0	13	31
お客さま先	環境R&D*	12	4	26	26
社会貢献活動	自主緑化、景観保持、自然保護、美化地域の環境活動支援、環境広告、環境情報公表など	0	0	23	23
合 計		183	294	160	249

*環境R&Dとは、研究開発コストのうち環境保全のためのものをいいます。

●地球環境保全の投資額・費用額については、廿日市工場熱融通事業設備設置などにより増加しました。

2019年度の効果

【環境負荷水準】

環境負荷水準	2018年度	2019年度
NOx原単位(製造) (mg/m ³)	33	35
CO ₂ 原単位(製造) (g-CO ₂ /m ³)	47	31
CO ₂ 原単位(オフィス) (g-CO ₂ /m ³)	6	5
掘削発生土外部排出量 (千t)	1	1
産業廃棄物発生量(最終処分量)(t)	41	36
一般廃棄物発生量(最終処分量)(t)	18	12

【企業内経済効果】

(単位：百万円)

経済効果	2018年度	2019年度
掘削発生土外部排出量削減に伴う経費削減額	286	281
燃料ガス使用量削減による経費削減額	127	121
ガスコージェネレーション発電に伴う売電収入	347	370
太陽光発電に伴う売電収入	35	34
その他	1	1
合 計	796	807

【全社設備投資額における環境設備投資額比率】

	2018年度	2019年度
全社設備投資額(百万円)	6,946	6,735
環境設備投資額比率(%)	2.6	4.4

【全社総売上高における環境費用額比率】

	2018年度	2019年度
全社総売上高(百万円)	62,362	63,358
環境費用額比率(%)	0.3	0.4

- 経済効果については、工場の熱融通による燃料使用量削減や、自家発電、ガス導管工事における掘削発生土の削減、太陽光発電に伴う売電収入などにより、807百万円の効果となりました。
- 太陽光発電に伴う売電収入は、年間34百万円となりました(発電量858千kWh)。